

**立教大学スポーツウエルネス研究所学術研究推進資金  
企画研究プロジェクトI(教員・学生参加型) 2025年度研究成果報告書**

プロジェクト 学生代表者	学科・学年	氏名
	スポーツウエルネス学科・3年	石田聖來
指導教員	所属・職名	氏名
	スポーツウエルネス学科・教授	松尾哲矢
研究課題	デフリンピックを通じた聴覚障がい者のスポーツと共生に関する調査	
研究年度	2025年度	
プロジェクト 分担者	石田聖來・湯淺華月・中山優羽・矢端未結・清水英・鴨下晃太郎・清橋名菜・中島瑠菜・木村彩乃・中村圭吾・吉田翼・大久保咲・長濱侑奈	

**プロジェクトの内容及び成果の概要**

私たちは、「社会課題×スポーツ」という視点から調査を行う中で2025年にデフリンピックが東京で開催されることを知った。そこでデフリンピックや聴覚障がいについて詳しく調べていくとデフリンピック自体の認知度の低さや、聴覚障がい者が健常者に理解されにくいという課題があることもわかった。そこで、この点について具体的な現状の把握やその解決策の検討を目的として、先行研究の検討とあわせて東京都国際スポーツ事業部・全日本ろうあ連盟・デフリンピック日本代表選手・デフサッカーチーム・大学生180人に調査を実施した。調査から、各団体でデフリンピックへの啓発活動や、聴覚障がい理解のための教育活動が行われていることが明らかになった。また、デフスポーツならではの魅力、具体的には音に頼らないコミュニケーションや、健聴者と聴覚障がい者がともにスポーツを行うことで相互理解につながることで、さらには、両者の相互理解には耳の聞こえる世界と聞こえない世界の両方を理解する人の存在が重要であると明らかになった。一方で、各団体の啓発活動は、理解を深め関わり続けるといった持続性に欠けるものであり、聴覚障がい者の正しい理解は広がっていない現状も看取された。また、スポーツには音が必要不可欠と考えている学生が多く、デフスポーツの魅力が十分に伝わっていないという課題が見られた。これらの知見をもとに「音のないスポーツを通じたつながろうプロジェクト」を考え、その中の具体的な施策として「Deafuture プロジェクト」を考案し、都内の小学校に赴き、試行的に施策を実施した。そこで得られた知見をもとに提言をブラッシュアップしたものを Sport Policy for Japan 2025 で具体的な政策として発表し、優秀賞を受賞した。

この施策を通して得られる効果については以下のものが挙げられる。①スポーツ遊びを通じて実際に「音のない世界」を体験してもらうことで、より深くリアルに聴覚障がい・聴覚障がい者について理解することができる。②段階的、継続的にプログラムを実施することで、一時的な関心から自分事として理解することにつながる。③「音のない世界」への理解を通じて、「知らない」から「知っている」へ、「関わらない」から「共に生きる」への変化を促す。④「音のないスポーツ」の面白さや魅力を発見することで、音が無くてもスポーツを楽しめるというスポーツ自体の新たな楽しみ方の提案に寄与する。

本施策を通して体験者が「音のない世界」の魅力や豊かさに気づき、聴覚障がいや「音のない世界」への理解を深め、さらには、スポーツそのものの新たな楽しみ方を見出すことを通じて、「誰もが個性を生かし力を発揮できる共生社会」の実現に寄与することができると考えている。

今回の調査を通じて聴覚障がい者の方々とも意見交換をさせていただく機会もあったため、この調査を提言で終わらせず、引き続き、共生社会実現に向けて取り組んでいきたい。